

渡部昇一

新世紀への英知

谷沢永一

われわれは、何を考え
何をなすべきか

小室直樹



渡部昇一

谷沢永一

小室直樹

新世紀への英知

われわれは、何を考え
何をなすべきか

新世紀への英知

——われわれは何を考え、何をなすべきか

平成13年 2月15日 初版第1刷発行

平成13年 3月10日 第3刷発行

著 者	わた 渡 たに 谷 こ 小	なべ 部 ぎわ 沢 むろ 室	しょう 昇 えい 永 なお 直	いち 一 いち 一 き 樹
-----	------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	------------------------------

発 行 者 渡 辺 起 知 夫

発 行 所 しょう 祥 だん 伝 しゃ 社

〒101-8701

東京都千代田区神田神保町3-6-5

☎ 03 (3265) 2081 (販売)

☎ 03 (3265) 1084 (編集)

印 刷 大 日 本 印 刷

製 本 大 日 本 印 刷

万一、落丁・乱丁がありました場合は、お取りかえします。

Printed in Japan.

© 2001, 渡部昇一、谷沢永一、小室直樹 / BOOK TV

ISBN4-396-61119-6 C0036

祥伝社のホームページ・<http://www.shodensha.co.jp/>

本書は、BOOK TV (CSデジタル放送・スカパー！フェクTV！253ch)
特別番組『新世紀への英知』(二〇〇一年一月八日放映)をもとに、
整理・編集したものです。

一〇〇字書評

切取り線

世界のしくみを知り、日本のこれからを考える！
ビジネスマン必読のノン・ブック四六判

侵略の世界史

この500年、白人は世界で何をしてきたか

清水馨八郎

破約の世界史

この1000年、彼らはいかに騙し、裏切ったか

清水馨八郎

日本人が忘れてしまった『日本文明の真価』

「日本にあつて世界にないもの」から本当の日本が見えてくる

清水馨八郎

侵略と戦慄 中国4000年の真実

初めて露かれた本当の中国史

杉山徹宗

『ザ・レイプ・オブ・南京』の研究

中国における「情報戦」の手口と戦略

藤岡信勝
東中野修道

祥伝社

世界のしくみを知り、日本のこれからを考える！
ビジネスマン必読のノン・ブック四六判

悪の経済学

覇権主義アメリカから、いかに日本が自立するか

逆襲する「日本経済」

ならず者大国・アメリカへの「挑戦状」

墮ちよ！ 日本経済

アメリカの軀から脱するために

たかられる大国・日本

中国とアメリカ、その重くべき「寄生」の手口

乗っ取られる大国・日本

「金」「土地」「先端技術」を吸い上げるアメリカの戦略

副島隆彦

副島隆彦

副島隆彦

浜田和幸

浜田和幸

祥伝社

[日本のこれからを考える]
クライン孝子の「歯がゆい」シリーズ

最新刊

「初めて客観的に語られる憲法論」と竹村健一氏も感嘆の最新刊!

歯がゆい日本国憲法

なぜドイツは46回も改正できたのか

歯がゆい国・日本

なぜ私たちが冷笑され、ドイツが信頼されるのか
戦後を完全に清算したドイツと、いまだしこりを残す日本の落差に鋭く迫ったベストセラー第二弾!

もどかしい親と歯がゆい若者の国・日本

国際社会で信頼を得るにいたっていない日本と、正反対のドイツ。根本的な原因は「教育」にあった。

歯がゆいサラリーマン大国・日本

なぜドイツ人は不況にも動じないのか

日本以上に深刻な不況に見舞われるドイツで、充実した休暇や豊かな老後が送れる理由は何か

祥伝社

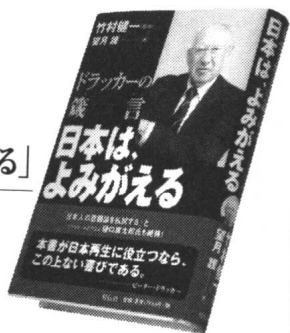
21世紀、ビジネス街で話題のベストセラー!

ドラッカーの
箴言 PF. Drucker's Sayings
日本は、
よみがえる

たけ むら けん いち
竹村健一 監修
もち つき まもる
望月護 著

樋口廣太郎氏絶賛!
「日本人の悲観論を払拭する」

「本書が日本再生に役立つなら、
この上ない喜びである。」
—ピーター・ドラッカー—



祥伝社

歴史の醍醐味を満喫

渡部昇一の 日本通史シリーズ

日本史から見た
日本人・古代編

■「日本らしさ」の源流

樋口清之氏は
「世界に通用する」日本
人論の出現」と絶賛

日本史から見た
日本人・鎌倉編

■「日本型」行動原理の確立

谷沢永一氏は
「歴史の面白さを復活し
た名著」と激賞

日本史から見た
日本人・昭和編

■「立憲君主国」の崩壊と繁栄の謎

会田雄次氏は
「昭和の悲劇」の真相を
初めて解明!!と感嘆

(四六判／ハードカバー)

祥伝社の
ノンブック

NON①BOOK

渡部昇一（わたなべ・しょういち）

昭和5年、山形県生まれ。上智大学卒後、オクスフォード大学などに留学。現在、上智大学教授（英語学）。専門の英語学の他に、文明・歴史批評の分野でも活躍。94年、独・ミュンスター大学より名誉哲学博士号を授与される。著書に『日本史から見た日本人』『かくて歴史は始まる』など。

谷沢永一（たにざわ・えいいち）

昭和4年、大阪府生まれ。関西大学名誉教授。文学博士。関大在学中、開高健らと同人誌『えんぴつ』を創刊。日本近代文学、書誌学を専攻。独自の書誌的評論方法を確立。該博な知識に裏打ちされた、歯に衣着せぬ評論で活躍。著書に、『こんな日本に誰がした』『人間通』『古典の読み方』など。

小室直樹（こむろ・なおき）

昭和7年、東京都生まれ。京大理学部数学科卒、東大大学院法学政治研究科修了。ハーバード大、MITなどで経済学、心理学、社会学を研究。昭和55年、ソ連脅威論全盛にあって『ソビエト帝国の崩壊』を発表し、大きな波紋を呼ぶ。政治経済から宗教まで、幅広い評論活動を展開。著書に『日本人のための経済原論』『それでも国家と呼べるのか』など。

二十一世紀、明るい日本のために（本書の問題提起と提言）

- 世界の支配構造を根本から変えた二十世紀の日本
- 戦前の敗戦と、平成の経済敗戦の共通項とは
- なぜ、日本には真のリーダーが生まれないのか
- 政治家不在で、役人が支配すると国はどうなるか
- 世界の中の日本民族、その長所と弱点とは
- なぜ日本は、いつも世界のトップに立ったとたんに崩壊するのか
- 金持ちに嫉妬する風土が日本をダメにする
- 所得税二〇%、相続税は全廃で充分やっていける
- 日本人としての誇りを持つことから、すべてが始まる

新世紀への英知

装
幀

中
原
達
治

まえがき

昨年（二〇〇〇年）の終わり頃に、BOOK・TVの大槻一徳氏おつまさずのりから、テレビ鼎談ていだんの企画をいただいた。充分に時間があるので、ゆっくり議論してもよい、ということだった。テーマは二十一世紀の到来を直前にして、二十世紀の日本を回顧し、かつ未来を望むというような、大きなワクのもので、台本とか、コンテとかは一切なしに自由に論じ合ってもよいというありがたいお話である。

そういう設定でならば、ユニークな視点を持っていて、しかも話題が豊富な相手としては、谷沢永一氏たざあえいちと小室直樹氏こむろなおきが最適任であることに疑問はなかった。幸いに両氏との日程の調整もついたので、私が一応司会者的な立場で鼎談が始まった。

このお二人とは私は対談で本を作ったこともあるし、テレビで一緒にしたこともあるので、話題が滾々こんこんとして湧き出ることは充分予想されていたが、実際に鼎談が始まってみると、実に三時間半、とどまることなく話は続いたのである。まさかテレビで全部流すわけにはいけないので、その半分ぐらい、テレビに向いた部分が採用されたと思う。しかしテレビで放映されなかった部分も永遠に消してしまうのは惜しいというので、全部ビデオ・

テープから原稿を起こしていただいた。その原稿を読みやすい形に整理したのが本書である。

二十世紀の世界を振り返るとき、そこにおける日本の意義の評価から始まらなければ、それこそ話が始まらない。昨年の八月頃、産経新聞が、「私が選んだ二十世紀の十大ニュース」という企画を立て、そのシリーズの中でCBSニュースのアンカーマンとして著名なW・クロンカイトや、ドイツのワイツゼッカー元大統領、『ル・モンド』の前主筆A・フォンテーヌら世界の有識者がそれぞれ十大ニュースを挙げていたが、誰ひとりとして日露戦争を挙げた者はいない。日本からは緒方貞子^{おがたさだこ}さんが登場しているが、彼女も挙げていない。

私たち三人は、このような歴史観には与^{くみ}しなかった。コロンプス以来始まった白人のアルバートヘイトが地球全体に及ぼうとしていたときに、それをひっくり返したのが日露戦争という二十世紀初頭の大事件（一九〇四―五年）であると考ええる。

このような大筋で三人の歴史観は一致するが、細かい事象については、それぞれ独自の見解を持っている。このあたりが鼎談をしていて最も楽しく、かつ啓発されたところであった。読者の方においても、大筋の歴史観においてはわれわれと同じでも、個々の論点に